

PTSD 診断の基準 ICD-10		
	初診時 年 月 日	最終診断時 年 月 日
①自ら生死に関わる事件に遭遇したり、他人の瀕死の状態や死を目撃した体験、などの破局的ストレス状況に暴露された事実があること。		
②自分が「危うく死ぬ、重傷を負うかも知れない」という体験の存在		
③通常では体験し得ないような出来事		
④途中覚醒など神経が高ぶった状態が続く		
⑤被害当時の記憶が無意識の内に蘇る		
⑥被害を忘れようとして感情が麻痺する。そのために回避の行動を取る。		
⑦外傷の出来事から1ヵ月後の発症、遅くとも6ヶ月以内の発症		
⑧脳の器質性精神障害が認められないこと		

PTSD 診断の基準 DSM-IV		
	初診時 年 月 日	最終診断時 年 月 日
A その人は、以下の2つが共に認められる外傷的な出来事に暴露されたことがある、		
1 実際に、または危うく死ぬまたは重症を負うような出来事を、1度または数度、または自分または他人の身体の保身に迫る危険を、その人が体験し、目撃し、または直面した、		
2 その人の反応は強い恐怖、無力感または戦慄に関するものである、 注、子供の場合はむしろ、まとまりのないまたは興奮した行動によって表現されることがある、		
B 外傷的な出来事が、以下の1つ、またはそれ以上の形で再体験され続けている、		
1 出来事の反復的で侵入的で苦痛な想起でそれは心像、思考、または知覚を含む、 注、小さい子供の場合、外傷の主題または側面を表現する遊びを繰り返すことがある、		
2 出来事についての反復的で苦痛な夢、 注、子供の場合は、ハッキリとした内容のない恐ろしい夢であることがある、		
3 外傷的な出来事が再び起こっているかのような行動をしたり、感じたりする(その体験を再体験する感覚、錯覚、幻覚および解離性フラッシュバックのエピソードを含む、また、覚醒時または中毒時に起こるものを含む) 注、小さい子供の場合外傷特異的な再演が行われることがある、		

4 外傷的出来事の1つの側面を象徴し、または類似している内的または外的きっかけに暴露された場合に生じる、強い心理的苦痛、		
5 外傷的出来事の1つの側面を象徴し、または類似している内的または外的きっかけに暴露された場合の生理学的反応性、		
C 以下の3つ(またはそれ以上)によって示される(外傷以前には存在していなかった)外傷と関連した刺激の持続性回避と、全般的反応性の麻痺、		
1 外傷と関連した思考、感情、または会話を回避しようとする努力、		
2 外傷を想起させる活動、場所または人物を避けようとする努力、		
3 外傷の重要な側面の想起不能、		
4 重要な活動への関心または参加の著しい減退、		
5 他の人から孤立している、または疎遠になっているという感覚、		
6 感情の範囲の縮小(例、愛の感情を持つことが出来ない)		
7 未来が短縮した感覚(例、仕事、結婚、子供、または正常な一生を期待しない)		
D(外傷以前には存在していなかった)持続的な覚醒亢進状態で、以下の2つ(またはそれ以上)によって示される		
1 入眠、または睡眠維持の困難、		
2 易刺激性または怒りの爆発、		
3 集中困難、		
4 過度の警戒心、		
5 過激な驚愕反応、		
E 障害(基準 B、C、および D の症状)の持続期間が1ヶ月以上、		
F 障害は、臨床上著しい苦痛または、社会的、職業的または他の重要な領域における機能の障害を引き起こしている、		

平成 年 月 日

所在地

医療機関

診療科

医師名

印